

(2) 市民としての教育専門部会

① 研究の基本的な考え方とその手順

ア 基本的な考え方

本部会では「市民」を「地域社会を創造していくにない手としての市民」すなわち、「地域住民」としてとらえることにした。

また、「市民性」ということについては、昭和36年に示された「成人教育における市民性の向上について」(文部省社会教育局)の中で、近代的民主社会の市民として身につけなければならない資質として、「自我の確立」「人権の尊重」「合理的な生活態度」「科学的な精神」「社会的連帯意識」があげられており、この点を配慮した。

さらに教育目標は、生涯教育の考え方を柱にすえて設定することにした。人生各期の発達課題は、ハヴィィガースト氏とエリクソン氏の考え方を中心に検討を進めた。これに合わせ、憲法、教育基本法、社会教育法などの関係法令のほか、昭和46年社会教育審議会答申の「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」、1976年の第19回ユネスコ総会において採択された「成人教育の発展に関する勧告」等をふまえ、調査などを行い市民の意識や実態をとらえ教育課題の抽出に努めた。

基本的には、足利の風土、生活課題に根ざした目標、また、未来社会を展望することにより、現在及び未来社会においての教育課題に対応できるような目標を目指した。発達期は、青年期(後期)、壮年期(前期・後期)、高齢期を中心に研究し目標設定作業を進めた。

イ 手 順

本部会として、教育目標設定するに当たり、次のような手順をとった。

(ア) 市民のとらえ方及び教育課題抽出の方法

市民には、職業人や家庭人としての面も含まれ明確に三者を区分することはできない。そこで、「市民をどうとらえるか」が最初の問題になったが、前述のように「地域住民」としてとらえる共通理解ができ、必然的に本部会の果たすべき役割を浮きぼりにすることができた。

それは、地域住民が社会生活を営む上で、どのような資質を身につけねばならないかを、市民の意識や実態と昭和29年の「足利市教育の一般目標」に合わせ関係資料を通して教育課題の抽出をしようと考えた。

はじめに、昭和22年告示の学習指導要領の「教育の一般目標」が国民一般の教育についての具体的目標として示されているので、この内容を検討するとともに、

IV 足利市の教育目標設定の実際

昭和26年告示の「栃木県教育の一般目標」との関連も考慮して検討した。

次に、「足利市教育の一般目標」については、教育課題小項目から検討を行い、その後の社会情勢や教育思潮の変化に伴って、新たに加えるものとして「情報処理能力の育成」「安全教育」「高齢者教育」「郷土学習」「国際理解」などがあげられ、また、従前からあったものだが、引き続き強調していかなければならないものとして、「社会連帯意識の高揚」「自然の愛護」「伝統文化の継承」「社会秩序の維持」などがあげられた。

その上で、足利市民がどのような特性やどんな学習要求をもち、どのような市民になりたいかを調査した。

市民の特性については、昭和27年に実施した市民像の調査をもとに、教育基本法、期待される人間像、社会教育審議会答申などを考慮にいれ項目を作成した。

また、教育目標設定に当たっては、市民の学習欲求や学習活動等の意識や実態をも配慮する必要があるので、この点を考慮して調査項目を設けた。

(イ) 1次調査及び2次調査の実施

1次調査により市民の特性についての意識調査を行い、特に得点の低かった項目や社会生活の角度から市民の実態を明らかにするため、2次調査を行った。

1次調査及び2次調査の結果から、足利市民の特性や学習要求等をとらえることができたが、教育課題抽出に当たっては、一般性・普遍性をもったものにするために関係法規や社会教育審議会答申の考え方を参考にした。

その後、教育課題ごとに調査結果や他部会から提起された事柄を考慮して達成目標を設定した。それを社会教育関係団体や、市民の一般教育関係団体の代表者等10数名に示し意見を求めた。それを四専門部会で調整し、「足利市の教育目標」試案として中間発表会で市民に発表し、広く意見を求めた。

意見の中に、「目標の内容がすぐわかるような表現にして欲しい。」「スローガン的なものを考えたらどうか。」「対人関係の円滑化を図れる目標や郷土の自然を愛する心を育てる目標を強く出して欲しい。」などがあった。

さらに、本部会が担当した「足利市の教育目標」が、実際に役立つ目標にするため、教育機能連関を明らかにすると同時に具体策を策定した。

ウ 第1次調査のねらいとその内容

(ア) ねらい

本部会の1次調査では、これまで検討してきた「市民」についての共通理解、並びに「市民性」についての一般的理解を基盤として、足利市民の実態をとらえることとして、1. 市民の特性について 2. 学習欲求について 3. 市民生活について 4. 自由記述という四つの項目を調査の柱とした。

なかでも、「市民の特性」を調査によって浮きぼりにすることを中心的なねらい

として項目を定めた。

(イ) 内容

市民の特性については、昭和29年の教育目標を設定するに当たっての調査内容を参考にして、「望ましい市民性がどの程度充足されているか。」をみるようにした。その調査の内容は次の通りである。

1 足利市民の特性に関する調査

(以下の質問項目のそれぞれに「はい」「どちらともいえない」「いいえ」で答える。)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| ① 親しみやすい。 | ② 親切である。 |
| ③ 信頼できる。 | ④ 広い心で人に接する。 |
| ⑤ 感謝の気持ちが表現できる。 | ⑥ 芸術を愛好する。 |
| ⑦ 神仏や先祖を敬う。 | ⑧ 時刻（時間）を守る。 |
| ⑨ 着実にものごとを処理する。 | ⑩ ねばり強い。 |
| ⑪ 恵まれない人に対して思いやりがある。 | |
| ⑫ 独立心に富んでいる。 | ⑬ 責任感が強い。 |
| ⑭ 協力的である。 | ⑮ 計画性に富んでいる。 |
| ⑯ 合理的な生活をしている。 | ⑰ 創意工夫に富んでいる。 |
| ⑮ 向上心に富んでいる。 | ⑯ 勤労意欲が強い。 |
| ⑭ 余暇を有効に使う。 | ㉑ 子供のしつけに熱心である。 |
| ㉒ 社会教育に関心がある。 | ㉓ 健康について強い関心をもっている。 |
| ㉔ 公共物を大切にする。 | ㉕ 奉仕の精神に富んでいる。 |
| ㉖ 交通規則を守る。 | ㉗ 自然を大切にする。 |
| ㉘ 資源（水・電気・石油など）を大切にする。 | |
| ㉙ 足利市に愛着をもっている。 | ㉛ 政治に関心をもっている。 |
| ㉚ 外国への理解と関心をもっている。 | |

2 学習要求についての調査

学校以外の所（公民館の学級や講座及び各種団体の講習やけいこごと、家庭での独習）での学習について、回答者自身「学んだことがある」「現在学んでいる」「これから学びたい」で答える。

- ① 職業（仕事）の知識・技能や職場の人間関係に属するもの。
(例 農業、営業、接客法、簿記、珠算、孔版技術、タイプ、職場の人間関係など)
- ② 市民としての政治的・社会的知識、感覚を身につけるもの。
(例 国際・国内の政治、社会、経済事情、憲法、教育基本法、地方自治など)
- ③ 家庭生活に必要な知識・技能に関するもの。

IV 足利市の教育目標設定の実際

(例 洋裁、和裁、料理、栄養知識、医療・保健知識、台所改善、計画出産、家族の人間関係など)

- ④ 教養を身につけるためのもの。

(例 文学・哲学・歴史・経済などの読書、語学・音楽・絵画・作法・華道などの知識・技術など)

- ⑤ 学校時代に学んだことを補う学習に関するもの。

(例 ペン習字、習字、手紙文の書き方など)

- ⑥ 子供の教育に関するもの。

(例 乳幼児保育、心理、児童・生徒の理解、家庭教育など)

- ⑦ 体育、レクリエーション活動に関するもの。

(例 スポーツ、ハイキング、登山、ダンス、映画鑑賞、演劇自演活動、囲碁、将棋、釣、写真など)

3 市民生活についての調査

次の質問項目のそれぞれについて「はい」「いいえ」で答える。

- ① あなたは、今後も足利市に住みたいと思いますか。

- ② あなたは、市内に心配ごとなどを相談できる人をもっていますか。

足利市で行っている次の活動について、回答者自身 「参加したことがある」「ない」、「現在している」「いない」、「今後したい」「したくない」で答える。

- ① 趣味やスポーツなどのサークル活動

- ② 読書会や学習会などのサークル活動

- ③ 自治会や青少年育成会の活動

- ④ 老人クラブの活動

- ⑤ P T Aの活動

- ⑥ 婦人団体の活動

- ⑦ 生協活動や消費者活動

- ⑧ 福祉に関する奉仕活動

4 自由記述として、回答者自身「こんな市民でありたい」を書く。

(ウ) 調査結果の概要

市民の特性について、市民が指摘した特性を高い順からあげると

- 1 足利市に愛着をもっている。

- 2 勤労意欲が強い。

- 3 神仏や先祖を敬う。

4 健康について強い関心をもっている。

5 親しみやすい。

⋮
⋮

27 創意工夫に富んでいる。

28 信頼できる。

29 広い心で人に接する。

30 時刻（時間）を守る。

31 奉仕の精神に富んでいる。

のようになった。傾向として

1 自分自身に関するものは比較的高い反応を示し、他人とのかかわり合いのあるものは反応が低い。

2 反応に性差がある。

3 行動レベルの調査であることから、「どちらともいえない」という回答が多く、実態をは握するのがむずかしい。

などがいえる。この調査によって、足利市民の特性がかなり明白となり、その姿が浮きぼりになったことにより、以後、教育課題の抽出をはじめとする作業に非常に参考となった。

学習要求についての調査結果は、高い数値を示したが、社会教育機関の諸学級や講座への参加の現況と比較すると意欲があるが学習への参加者が少なく、特に男性はその傾向が顕著である。

市民生活についての意識調査では、本市に対する愛着度は高いものがみられた。学習や社会活動などへの参加についての状況は、総体的に現在は参加していないが、今後参加したいという傾向がみられる。

趣味、スポーツ活動には、参加意欲があるが、学習活動には意欲が低い傾向がある。また、各種の団体活動への参加については、総じて参加意欲が高い。なかでも福祉に関する奉仕活動には、今後したいという意欲がみられる。

自由記述のなかには、「足利市の発展に寄与したい。」「足利のまちに誇りをもちたい。」など建設的な意見が多く見られたほか、個人としては、「思いやりのある人、他人に迷惑をかけない人になりたい。」という意見が多かった。

学習欲求については、これから教育が市民に具体的に、どのように対応していくらよいかを知る手がかりとして調査した。

市民生活については、この調査だけで判断するのは早計であるが、市民の特性を考える上での参考資料として調査した。

自由記述については、調査項目だけでは内容が限定されるので、「こんな市民でありたい」という問い合わせで、多様な意見を収集するために調査をした。

エ 第2次調査のねらいとその内容

(ア) ねらい

本部会のもつ特質でもあるが、対象・年代が広く、その上、それぞれの生活場面が幅広いという関係から、調査内容も多様になった。1次調査の結果から、さらに検討したいもの、また、1次調査項目に含まれていなかったものを調査することにより実態をは握ることをねらいとして調査した。

(イ) 内容

1次調査の市民の特性に関する調査で低いものとして、「時刻を守る。」は、31項目中30位、「奉仕活動」は、31位という結果であった。そこで前者については、時刻を守るようにするため、必要と思われる事柄をあげ、そのなかで一番大切なものはどれかという質問をした。後者については、なぜ奉仕活動が低い結果になったか、その理由と思われる事柄をあげ、そのなかで一番大きな理由はどれかという質問をした。

1 時刻を守る

- ことがら 1 みんなが集まりやすい時間に集会をもつようとする。
 2 定刻になったら会議を始めるようとする。
 3 会議のねらい、内容、日程等をあらかじめ連絡しておく。

2 奉仕活動

- ことがら 1 自分のことだけで奉仕活動する余裕がない。
 2 奉仕活動をしたいが、活動する場がわからない。
 3 奉仕活動をいっしょにする仲間がいない。

3 次の各項目の努力点の中にあげられていることの「足利市民の実態はどうか」について、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」で答える質問をした。

内 容 項 目	努 力 点
① 思いやりのある社会	○ 老人や身障者に席を譲ることができる。
② 礼儀正しい生活	○ 気持ちよくあいさつができる。 ○ 正しいことば遣いができる。
③ 情報化社会	○ マスコミ等の情報に対して選択能力をもち、自ら判断して行動できる。
④ 対 話	○ 相手の立場や気持ちを尊重し、自分と異なる意見にも耳を傾けることができる。
⑤ 婦人教育	○ 婦人がそれぞれの年代に応じた生活課題をもっている。
⑥ 安 全	○ 日常生活の中で危険箇所を知り、安全点検を行う。

- 4 生活環境やまちづくりに関する次のことがらについて、足利市民の実態はどうかを「はい」「どちらともいえない」「いいえ」で答える質問をした。
- ① 町内行事に積極的に参加する人が多い。
 - ② 冠婚葬祭や消費生活の合理化を目指した運動をしている。
 - ③ 子供が悪いことをしたのを見かけたら、その子供に注意するか、子供の親に知らせる人が多い。
 - ④ 郷土の文化を理解、保存、継承に努める。
 - ⑤ 個人または団体の利害や感情にとらわれず、全体との発展を図っていくことができる。
 - ⑥ 道路や公園などにゴミやたばこの吸いがら、空かんなどを散らかす人が多い。
 - ⑦ テレビやステレオ等の音量を必要以上にあげ、近所迷惑をかける人が多い。

(ウ) 調査結果の概要

第1の項目「時刻を守る。」を達成するためには、「定刻になったら会議を始める。」また、第2の項目「奉仕活動」がされない理由として、「自分のことだけで奉仕活動する余裕がない。」が、過半数をしめている。

また、「気持ちよくあいさつができる。」は充足度が高いが、反面、「正しいことば遣いができる。」は、充足度が低い。

生活環境やまちづくりについては、公衆道徳の欠如が顕著にみられた。

オ 教育課題抽出の観点並びにその方法

本部会にあっては、前記目標設定の基本的な考え方において触れた通り、市民をどうとらえるかという概念の確立を図るなかで、「地域社会の一員としての市民」というとらえ方をし、生涯教育、発達課題についても重要な視点と考え、昭和29年の「足利市教育的一般目標」の教育課題小項目の分析、検討を試みた。また、本部会として考えられる教育は、学校教育以後の市民としての教育、社会教育とおさえた。そしてその後の社会情勢や教育思潮の変化などから、強調される点、新たに加える点を考慮して、1次調査項目を作成し2次調査において、意識と実態とを比較検討することと、教育課題と思われるもので前回に含まれていなかった内容を調査した。その後、教育課題の抽出にとりかかり、次のような角度から整理して地域教育課題を抽出した。

- Aタイプ 市民の意識が高く、実態も充足されている。
- Bタイプ 市民の意識は高いが、実態は充足されていない。
- Cタイプ 市民の意識は低いが、実態は充足されている。
- Dタイプ 市民の意識は低く、実態も充足されていない。

この場合、本部会としては、B、A、C、Dの順に各項目をランク付けすることを

IV 足利市の教育目標設定の実際

原則とした。そして、たとえDタイプであっても、どうしても必要な項目については取り上げたいと考えた。

このようにして摘出した地域教育課題と一般教育課題を比較検討し、地域性と一般性及び普遍性を兼ね備えた「足利市の教育課題」を摘出した。

各期における「足利市の教育課題」は次の通りである。

発達期	タイプ	教 育 課 題
青年期	A	○ 宗教について正しい理解と態度をもち宗教的情操を高めることができる。
	D	○ 日本語を大切にし正しいことば遣いをする必要がある。
	D	○ 将来を見通して計画的に生活する必要がある。
	D	○ 奉仕活動の意義を理解し、積極的にその活動に参加する必要がある。
青年期 ～壮年期	B	○ 信条・宗教・主張などの違いに対する寛容な態度が必要である。
	B	○ 公民としての社会的役割を自覚し、責任ある言動をとる必要がある。
	D	○ 個人または団体の利害だけにとらわれず全体との調和を図っていくことが必要である。
青年期 ～ 高齢期	B	○ 相手の立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接する必要がある。
	B	○ 健康の重要性を認識し、その保持増進に努める必要がある。
	D	○ 國際的な知識や感覚を身につけ、世界的視野に立ってものごとを広く考える必要がある。
壮年期	B	○ 社会の変化に対応できるため、知識の継続的習得と創意工夫に努める。
	B	○ 時間の大切さを認識し、時刻を守ることが必要である。
	B	○ 健康で安全な生活環境づくりに努める必要がある。
	D	○ 情報を適切に選択し、主体的に判断する必要がある。
壮年期 ～ 高齢期	D	○ 郷土の自然を愛し、公徳心のかん養に努める必要がある。
	B	○ 主体的計画的に自由時間を活用する必要がある。
	B	○ 地域集団活動への積極的参加と、その役割を果たす必要がある。
	B	○ 郷土の文化を理解し、その発展に努める必要がある。

カ　達成目標及び部会が考えた教育目標作成の観点並びにその方法

本部会においては、教育課題を達成するために課題を分析し、それを支えている内容

を洗い出し、その内容に基づいて達成目標を設定した。さらに、その達成目標をくくって教育目標を設定した。しかし、達成目標については網ら的であるため、「特に重要」「かなり重要」「重要」の3段階に分類し、足利市の教育を推し進めていく際のウェイト付けをすることにより、足利市の教育目標の特徴が浮きぼりになるようにした。その結果、「特に重要」とした達成目標は15目標、「かなり重要」29目標、「重要」30目標となった。

また、教育の適時性等から発達期（人生各期）についても検討した結果、児童期3目標、青年前期14目標、青年後期13目標、壮年前期36目標、壮年後期2目標、高齢期6目標となった。

キ 具体策、教育機能連関策定の観点並びにその方法

各専門部会で検討された教育目標、達成目標を整理・統合し、人生各期にわたる「足利市の教育目標及び達成目標」が設定された。この段階で本部会で具体策を策定する教育目標が明らかにされた。青年期10、壮年期13、高齢期10の教育目標である。

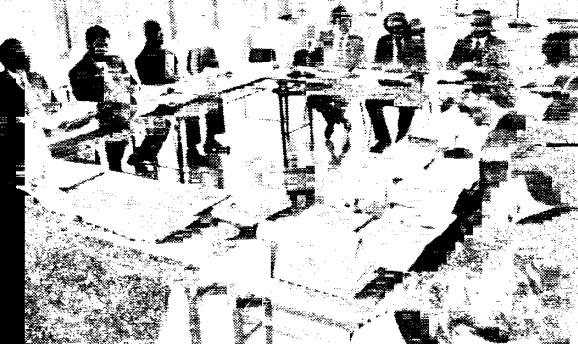
そこで、具体策策定に当たっては、教育目標、達成目標を達成するために考えられる施策と、現在足利市で行われている施策を達成目標とのかかわりにおいて洗い出し、それらの中で特に重視しなければならない内容を検討した。そして、それらを行政自ら行うものと、市民自らが行うものとの二つの観点から整理した。

教育機能連関について本部会では、前記具体策を検討した教育目標について、中核となる教育の場と、それを支える教育の場を明らかにし、それぞれの役割とそれらのかかわりを検討した。特に、社会教育が中核となり達成しなければならない教育目標については、他の学校や家庭等がどのようなかかわりをもたなければならないかを明らかにした。

また、学校や家庭等が中核となって達成しなければならない教育目標については、社会教育が側面からどのように支える必要があるかを検討した。

② 研究経過

昭和51年度

回	日 時	内 容
1	11月18日 14:00～16:00 (601会議室)	<p>1 専門部会の研究構成について</p> <p>(1) 市民としての教育について自由討議</p> <ul style="list-style-type: none"> 本部会の方向をさぐるため、各委員より自由に発言を求めた。 <p>特に話題になったこと</p> <p>ア 「市民」をどうとらえるか。</p> <p>イ 多元的価値観の社会における教育の課題</p>  <p style="text-align: center;">市民としての教育専門部会 「市民」のとらえ方についての検討</p> <p>(2) 書記について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局職員が交替する。
2	12月16日 14:00～16:00 (601会議室)	<p>1 市民としての教育課題について</p> <p>(1) 前回の概要説明</p> <p>(2) 本部会の教育課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課題とその摘出の方法について検討
3	1月17日 14:00～16:00 (601会議室)	<p>1 市民としての教育課題について</p> <p>(1) 「市民」のとらえ方について</p> <ul style="list-style-type: none"> 部会長より説明を受け検討、その結果「地域住民」としてとらえる方向で進めることにした。 <p>(2) 教育課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会規範の在り方と、それに対する個人としての取り組みを考える必要があるとした。 <p>2 調査内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> 小山市の「市民意識と学習意欲に関する調査報告書」の内容の説明
4	2月22日 14:00～16:00 (601会議室)	<p>1 「市民」のとらえ方と教育課題について</p> <p>(1) 前回の概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域住民」としてとらえることについて、河野先生の指導もあり、地域住民で研究を進めることにした。

回	日 時	内 容
5	3月10日 14:00～16:00 (601会議室)	<p>(2) 教育課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を摘出するために、昭和29年の「足利市教育一般目標」の教育課題小項目から検討することにする。 <p>1 昭和52年度事業計画(案)の作成について</p> <p>(1) 事務局より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査を主とした事業編成である。 ・ 事業内容は、全体研修と各専門部ごとの研修・協議の二本立であること。 <p>原案通り了解を得た。</p> <p>2 市民としての教育課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昭和29年の「足利市教育の一般目標」の教育課題小項目について逐条審議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課題として取り上げる必要のあるものについて選定 <p>3 教育研究所長より謝辞と52年度への協力依頼について</p>

昭和52年度

回	日 時	内 容
1	4月18日 14:00～16:30 (333会議室)	<p>1 「市民」のとらえ方について</p> <p>(1) 部会長より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国民、国際社会人としての市民について ・ 地域社会の一員としての市民について ・ ポール・ラングラン氏の所説と釈尊の説かれた四苦八苦との関連について <p>2 地域社会の範囲の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どこの地域に行っても通用する人間となるような教育目標にする。 <p>3 他の専門部会に望むことの検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文化財関係を学校教育で取り上げて欲しい。 ○ 青少年に奉仕の精神を養いたい。 ○ 礼儀作法とか弱い者をいたわる気持ちを育てる。など <p>4 観察について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 結果だけでなく、作成過程の苦心を聞く必要がある。 ○ 観察のねらいを明確にして、観察地を選定する。 <p>5 河野重男先生への質問事項の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「市民」を足利市民ということでおさえてよいか。

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域社会をどうとらえるか。 ○ 地域社会とコミュニティーの違いについて ○ 重複した部分をどうするか。
2	5月26日 14:00～16:40 (334会議室)	<p>1 市民として教育課題（小項目）の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昭和29年の「足利市教育の一般目標」の教育課題小項目の逐条審議 <p>2 視察について</p> <p>(1) 事務局より、大曲市視察の概要について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 参加者は、事務局に一任される。
3	6月27日 14:00～16:30 (602会議室)	<p>1 大曲市視察報告について</p> <p>1) 清水事務局員より報告</p> <p>2) 報告についての質議</p>
4	7月25日 14:00～16:30 (201会議室)	<p>1 昭和29年の「足利市教育の一般目標」の教育課題小項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本部会として取り上げる小項目の内容を逐条審議 • 字句や内容が現代社会に通用するように訂正補足する • 新しい項目の作成 <p>2 河野重男先生への質問事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同和問題の取り組み方 ○ 参考文献等の紹介 <p>3 調査項目の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調査内容の項目作成は、範囲が広いので小委員会で検討する。
臨時	8月1日 15:00～17:00 (201会議室)	<p>1 田部井委員より、国立社会教育研修所訪問結果の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国立社研は、資料が豊富。これから接触を図ることが望ましい。 <p>2 調査に関する調査項目作成について</p> <p>(1) 事務局より、調査項目「余暇利用」について作成した案を説明</p> <p>(2) 調査の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全体的に調査する。 • 調査対象を考え、全市的な結果が得られるようにする。 <p>3 河野重男先生への質問の回答について</p> <p>(1) 調査項目の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> • たいへんよい。これと同時に「市民として思うこと」を自由記述の形で質問したらどうか。

回	日 時	内 容
臨時	8月1日 15:00～17:00 (201会議室)	<p>(2) 調査対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回目は無作為でよいが、2回目以降はその結果により対象を考慮した方がよい。 ・ 子供は、調査対象からはずす方がよい。 <p>(3) 参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「民主社会のなかの市民」坂西志保著 民主教育協会発行(各委員に配布した。)
5	8月22日 14:00～16:30 (601会議室)	<p>1 国立社会教育研修所視察報告について</p> <p>(1) 中原事務局員より報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 参考になる資料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「私見、期待される人間像」 高坂 正顕著 ・ 「教育基本法の理解」 田中耕太郎著 ・ 「自分はもっとこうなりたい」NHK総合文化研究所 ・ 「社会教育調査の技法」 全日本社会教育連合会 ・ 「社会教育調査の実践と効果」 ○ 調査について <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習意欲(内容)に関する調査も必要 ・ 調査に当たっては、仮説を立てて実施すること。 ・ 選択肢は、場面を設定したものがよい。 ○ 教育目標について <ul style="list-style-type: none"> ・ 定性的なものより、定量的なものがよい。 ・ 歴史的な考察、反省も必要である。 <p>2 調査方法の検討について</p> <p>(1) 調査人員は、2000名で十分</p> <p>(2) 公平に意見を吸い上げる配布の方法が必要</p> <p>(3) 市外から移入してきた人に対する抽出は、特に意図的に行う必要はない。</p> <p>(4) 年齢は、20才以上</p> <p>(5) 1回目の調査は、願いや全体像 例えば「市民として何が大切か」 2回目は、専門家がどう考えているか調査する。</p>
		<p>1 調査形式と調査項目について</p> <p>(1) 事務局より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査は、「市民には、どんな長所や短所があるか」「学習要求」「足利市民にどんなことを望むか」という問い合わせ、自由に回答してもらう三つを実施したい。

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容		
6	9月19日 14:00～16:30 (601会議室)	<p>(2) 調査内容を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長短で質問するのではなく、市民性をあげておいて、どの程度充足されているか聞くのがよい。 ・ 長所の反対語が項目によって、むづかしいものがある。 ・ 評価を数字ですのでなく、調査項目にある語句を利用して表現した方がよい。 ・ 具体的には、下のようにした。 <table border="1"> <tr> <td>進歩的態度</td> <td>とむ, ややとむ, 普通, ややかける, かける</td> </tr> </table>	進歩的態度	とむ, ややとむ, 普通, ややかける, かける
進歩的態度	とむ, ややとむ, 普通, ややかける, かける			
7	10月17日 14:00～16:00 (334会議室)	<p>1 調査項目の再検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民の特性に関する調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の5段階を3段階にする。 (はい, どちらともいえない, いいえ) ・ 特性の項目の表現を平易なものにする。 <p>2 予備調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調査方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業, 年齢, 学歴, 地域, 性別を加味する。 ・ 一委員が5枚の調査をする。 		
8	11月14日 14:00～16:00 (柳原小 会議室)	<p>1 教育目標設定総合調整委員会の結果報告について</p> <p>2 調査項目について指導者の河野重男先生から指導を受けたことの報告について</p> <p>(1) 調査項目が「目標設定にどのような必要性をもつか」という視点が重要</p> <p>(2) ボランティア活動の範囲、市民としての活動は何を指すのか明確にしておくようにする。</p> <p>3 予備調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 12月8日までに終了させる。 		
9	12月8日 14:00～16:00 (601会議室)	<p>1 予備調査結果の検討について</p> <p>2 本調査内容の検討について</p>		
		<p>1 アンケート用紙について</p> <p>(1) 事務局より説明</p>		

回	日 時	内 容
10	1月17日 14:30~16:50 (601会議室)	<ul style="list-style-type: none"> • 回答しやすいようにする、回答の正確を期するため、文章の加筆をしたこと。 • コンピューターで処理できない問い合わせは、委員の手による集計しかない。 <p>2 コンピューター処理結果による集計内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 年齢別、男女別の集計も必要 <p>3 封筒づめする日について</p>
11	2月17日 14:00~16:30 (601会議室)	<p>1 アンケート回答用紙の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 用紙の記入状況の確認 • 市民部会の回収率 84.1% (2月15日現在) <p>2 集計結果の考察について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ コンピューター処理結果の集計について説明 • 考察方法は、次回に検討する。
12	3月13日 14:00~16:30 (601会議室)	<p>1 コンピューター処理結果の集計表の説明について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 集計表の読み方 <p>2 集計結果の考察について</p> <p>(1) 市民の特性に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「はい」の回答数の多いものから順位をつけ、考察の視点について検討 <p>(2) 学習欲求について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 調査結果と社会教育の現状について検討 <p>(3) 市民生活について</p> <p>(4) 自由記述について</p>

昭和53年度

回	日 時	内 容
1	4月28日 14:00~17:00 (601会議室)	<p>1 第1次調査の考察とまとめについて</p> <p>(1) 考察の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 市民の特性と学習要求等に分けて行う。 ◦ 考察の観点について <ul style="list-style-type: none"> • 調査結果からみた市民性 • 特性を生みだした社会的・自然的因素 • 調査に表われないが、足利市民として必要な特性 • 他市との比較 • 2次調査で調査したい項目

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
2	5月15日 14:00～17:00 (601会議室)	<p>1 調査のまとめ「足利市民一万人の声」を基に結果を説明</p> <p>(1) 指導者の新井郁男先生の指導もあり充足度より特性という語にしたい。</p> <p>(2) 自由記述のまとめは、例に示された通りにする。</p> <p>(3) 重視している項目、関心の低い項目と関係項目の比較について、本部会は、他の部会と設問がちがう。</p> <p>2 集計結果の検討について</p> <p>(1) 個人的要素、社会的要素という区分の仕方について</p> <p>(2) 性別・年齢別・地域別についての考察について</p> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会連帯感に関するこの調査で信頼性、妥当性があるか。 ・ この調査で足利の市民像は出てくるか。
臨時	6月8日 15:30～17:00 (601会議室)	<p>1 昭和29年の「足利市教育の一般目標」に取り上げられた項目について</p> <p>2 昭和29年の「足利市教育の一般目標」に取り上げられなかった項目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子供のしつけに熱心である。 ○ 社会教育に関心がある。 ○ 向上心に富んでいる。 ○ 恵まれない人に対して思いやりがある。 ○ わざり強い。 ○ 着実に物事を処理する。 ○ 計画性に富んでいる。
3	6月30日 14:00～16:30 (601会議室)	<p>1 第2次調査のスケジュールについて</p> <p>2 第2次調査項目案の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題になった項目 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会連帯感の範囲 ・ 新生活運動について ・ 社会正義について ・ 婦人教育について ・ 感動についての問い合わせについて ・ 追加項目について ・ その他 ・ 詳細にわたる項目検討は小委員会で行う。

回	日 時	内 容
4	7月25日 14:00～17:00 (601会議室)	<p>1 第2次調査設問案の検討について</p> <p>(1) 時間を守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明文中の「時間」を「定刻」にする。 3の文案を「会議のねらい、内容、日程等をあらかじめ連絡しておく。」にする。 <p>(2) 奉仕活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 3の文案を「奉仕活動をいっしょにする仲間がいない。」とする。 <p>(3) 設問3から9までは、実態を聴くように説明文を訂正する。</p> <p>(4) 設問10から最後までは、そのままよい。</p>
5	8月21日 14:00～16:00 (334会議室)	<p>1 第2次調査の集計と考察について</p> <p>資料の説明</p> <p>(1) コンピューター処理結果による集計内容</p> <p>(2) 自由記述の集計方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 1次調査の方法に準じて類型別に集計する。 <p>(3) 設問の考察方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回、3グループに分れて考察を行い、全体討議は9月26日を行う。 (記述は主観的な推量や解釈を避け、客観的に行う) <p>2 面接調査の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の専門部会の質問内容との関連を考慮する必要がある。 <p>3 その他（意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育目標、地域教育課題については、市民憲章や本市としての教育理念をおさえることが重要である。
6	9月26日 14:00～16:30 (601会議室)	<p>1 第2次調査の考察に関する小委員会でまとめた原案検討について</p> <p>2 面接調査の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> 部会として面接調査を必要とする項目はない。
		<p>1 面接調査の実施について</p> <p>(1) 他の専門部会との関連もふまえて、本部会も実施する。（部会面接12月1日実施）</p> <p>(2) 面接の内容項目は以下の通りとする。</p>

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
7	10月30日 14:00～17:00 (601会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「思いやりのある社会」「婦人教育」「高齢化社会の対応」の3項目 <p>2 地域教育課題の摘出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 達成目標、地域教育課題は、1次調査、2次調査のまとめを基にして ○ 小委員会で原案を作成し検討する。
8	11月30日 14:00～17:00 (601会議室)	<p>1 面接（公聴会）結果の報告について</p> <p>2 一般教育課題については事務局案を検討（地域教育課題の摘出については、今回はできなかったが早急に完了することとする）</p>
9	12月8日 14:00～17:00 (601会議室)	<p>1 地域教育課題（案）の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域教育課題の摘出は、一般教育課題と関連を持たせながら検討（河野重男先生の指導あり） <p>※ 教育目標と達成目標の関連について</p>
10	1月16日 14:00～17:00 (601会議室)	<p>1 地域教育課題（案）の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回に引き続き検討する。
11	2月8日 14:00～16:30 (601会議室)	<p>1 達成目標の検討について</p> <p>(1) 小委員会にて作成の達成目標原案について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達期別にそれぞれの達成目標がどこにあてはまるか。 ・ 他の専門部会と関連する「目標」を抽出し、タイプ別に分類 <p>※ 壮年後期・高齢期の達成目標項目を今後増やす方向で検討</p>
臨時	2月26日 14:00～17:00 (331会議室) <small>四専門部会 合同会議</small>	<p>1 他の専門部会との合同会議について</p> <p>(1) 家庭人としての教育専門部会との話し合い。</p> <p>(2) 職業人としての教育専門部会との話し合い。</p> <p>(3) 学校教育専門部会との話し合い。</p>
12	3月9日 14:00～18:00 (601会議室)	<p>1 合同専門部会結果に基づく、部会達成目標再確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2項目新設・修正して、他部会よりの要望に対応することとする。 <p>2 達成目標の重要度の検討について</p>

回	日 時	内 容
臨時	3月29日 15:00～17:00 (601会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの達成目標につき「特に重要」「かなり重要」「重要」の3段階分類 3 教育目標（案）検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 小委員会で作成した原案を検討し、18項目を設定する。 <p>1 部会で作成した教育目標・達成目標等への面接結果の反映のさせ方について <ul style="list-style-type: none"> ○ 面接の結果は、特に修正を要することはないが、記述方法や一部語句の修正の要望あり。また強調してほしい部分については、起草委員会において反映させる。 </p> <p>2 中間報告会資料について <ul style="list-style-type: none"> ○ 原稿は小委員会にて作成し、後日検討する。 </p>

昭和54年度

回	日 時	内 容
1	4月27日 14:00～16:00 (601会議室)	<p>1 達成目標にかかる具体策・教育機能連関策定について <ul style="list-style-type: none"> ○ 原案を小委員会が作成し、それを基に検討する。 ○ 具体案のサンプルにつき意見聴取 (部会終了後、市民資料室見学) </p>
2	6月4日 14:00～17:00 (602会議室)	<p>1 教育目標・具体策の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 小委員会作成（案）を検討する。 </p>
3	8月24日 14:00～17:30 (601会議室)	<p>1 中間発表会の結果報告について</p> <p>2 教育目標検討と達成目標作成の作業分担について <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育目標検討の結果、1項目については、分離する方向で起草委員会へ反映させていく。 ○ 達成目標作成のための作業分担を行う。 </p>
4	9月20日 14:00～16:30 (601会議室)	<p>1 達成目標の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 小委員会より提出された原案に基づき、逐条検討を行う。 </p> <p>2 部会で重要と考える達成目標の抽出について</p>
	10月11日	<p>1 達成目標の検討（継続）について</p>

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
5	14:00～17:00 (334会議室)	○ 達成目標（案）について、引き続き検討する。
6	11月15日 14:00～17:00 (601会議室)	1 達成目標の検討（継続）について ○ 検討内容は前回と同じ
7	12月6日 14:00～16:45 (334会議室)	1 達成目標の検討（継続）について ○ 検討内容は前回と同じ 2 他の専門部会の達成目標との関連からの検討について
8	1月31日 15:00～17:00 (601会議室)	1 目標起草委員会の状況報告について 2 達成目標の市民部会への位置づけについて ○ 達成目標について市民部会に関連する項目をおさえる。その視点は、発達期を基に位置づける。 ○ 表現、語句の修正等はさらに検討する。 3 新井郁男先生より指導を受ける。
9	2月19日 14:00～16:30 (601会議室)	1 具体策、教育機能連関策定の作業計画について 2 具体策の策定について ○ 小委員会により分担して原案策定し、次回の部会において内容を検討していくこととする。 3 教育目標・達成目標の総体的な見直しについて ○ 見直しの結果、部分修正を行い、最終調整の時点で修正する。
10	3月4日 14:00～17:00 (601会議室)	1 具体策（案）の検討について ○ 小委員会より提出された原案に基づき逐条検討をする。 2 重点教育目標について ○ 第1次調査結果（市民の特性）と時代の要請に対応して、重点教育目標を抽出する。（11項目）

昭和55年度

回	日 時	内 容
		1 同和問題にかかわる教育目標について ○ 市民部会としての目標のうち1項目が関連深いが、他部会と

回	日 時	内 容
1	4月18日 14:00～17:00 (601会議室)	もかわるので、その表現やその他については事務局で行う。 2 具体策（案）の検討について ○ 前回に引き続き、小委員会で検討した原案の検討
2	5月13日 14:00～16:00 (601会議室)	1 具体策（案）の検討について ○ 他の専門部会で策定した具体策との関連について検討 2 教育機能連関策の策定について ○ 小委員会で原案を作成し、検討することとする。
3	6月19日 14:00～16:30 (601会議室)	1 教育機能連関の策定について ○ 小委員会で検討された原案を基に検討する。  市民としての教育専門部会 教育機能連関検討
4	7月4日 14:00～17:00 (601会議室)	1 教育機能連関の策定（継続）について ○ 前回に引き続き、小委員会で検討された原案を基に検討する。
5	11月14日 14:00～16:30 (601会議室)	1 意見書（案）の検討について 2 次年度以降の足利市教育目標具現化構想について 3 報告書の原稿内容検討について ○ 「専門部会における目標設定の実際」の原稿内容の検討を行い修正する。 4 本発表会の持ち方について 5 12月2日の全体会で協議してほしい議題の提出について